

次に小腹、下腹部を先に刺すのは、邪気は上に動きやすいので、上腹部を先に刺した後下腹部を刺すと、下腹部から上に逃げた邪気に上腹部の痞りが反応して弛んだ痞りがまた硬くなるから。

次に足。足の経絡は、陰経は頭や胴体の内側に、陽経は胴や頭の外側に関係。先ず陰経に刺すのは、腹を動かして発生した邪気の逃げ道を足の方にも作るため。次に陽経に刺すのは、足に引いた邪気の逃げ道を足の外側にも作るためと、体の前～横や腹の表面に出てきた邪気を足の陽経に引くため。手の場合とほぼ同じ。

また、足の陰経に刺せば、腹の悪い所や深い痞りに直接響いて、それらの邪気をより減らせるので、それらをより改善できる。同じように、足の陽経に刺せば、腹の浅い所に出ていた痞りの邪気をより減らせるので、その状態をより改善できる。

これは、もともと、足のツボが腹の悪い所や腹の奥や表面の痞りを庇（かば）うために出てきたことによる。そのため、腹のツボに浅く刺すだけでも、足のツボに刺したときに腹のツボが弛んで、腹の症状が改善する。

次に、うつ伏せで背中、腰、足裏。背中側に刺すのは、腹の邪気を背中側へ引く逃げ道作りと言うこと。そして、背中に刺すと、腹側のツボがもっと弛んだり、腹側の悪い所の改善が進む。

もともと、背中側のツボは、少しづつ漏れていた腹の邪気が逃げ道を探したため、また、腹の症状や腹側のツボを庇うために、腹側とほぼ同じ高さに出る（もちろん、背中側の使いすぎで背中側にツボが出ることもある）。そのため、背中側に出ているツボから邪気を引き出すと、軽く刺しておいた腹のツボから邪気が背中側に誘導され、腹のツボが弛み、その結果として腹側の症状の改善も進む。

腹と違って上から下に刺すのは、腹を動かして発生した邪気は主に肩胛骨下角よりも上に動くので、それよりも下側は、上から下に刺しても上のツボが復活する可能性は低いから。

終わりに座位の姿勢で刺すのは、腹を動かして発生し頭の方へ動いた邪気の後始末は、座位でした方がスッキリさせることができるから。寝たまま刺すと、立ったときにフラフラしたり、後で頭が痛くなったり熱が出たりする可能性が増える。座位で、肩から肩胛骨、次に首、頭と言う順で刺すの

は、腹側と同じで、先に頭に刺して後で肩胛骨に刺すと、肩胛骨から頭に逃げた邪気の影響で頭のツボがまた出てくることがあるから。

首の前や鎖骨・胸骨など胸の上部にも刺鍼する場合には、肩首の後、頭の前に刺す。これも、そこから逃げた邪気が頭の方に行きやすいから。

肩首、胸の上部や頭に熱い所があるときに散鍼するのは、逃げてきた邪気によって熱が皮下に籠もることが多いから。この辺り（漢方の用語で「表位」と呼ぶ）の皮膚に熱が籠もった場合に、漢方では、解表（解肌）という目的の生薬を配合するが、散鍼にはそれと同じ効果がある。特に、腹を刺鍼し腹の邪気を動かした場合には、頭には必ず熱い所があるので、散鍼して熱を散らす。

終わりに手甲に引き鍼するのは、散鍼で散らし切れなかった頭の邪気を手の陽経末端に強く引いて出すため。また、治療後に腹から漏れて頭に行くかもしれない邪気を手の末端から出ていくよう誘導するため。

この終わりの頭の散鍼と手甲への引き鍼を疎（おろそ）かにすると、立ち上がったときに目眩がしたり、後で頭痛や発熱したりしやすい。時間が無いときには、途中を省略しても、この頭の散鍼と手甲への引き鍼は、しっかり丁寧にする。

この慢性期の型をすると、腹に溜まっていた邪毒から邪気が抜けるので、水毒・悪血などの毒物の毒性が弱まり、体の普通の排泄手段で体外に出せるようになる。治療した後に汗が出たりトイレに行きたくなくなったりするのは、そのため。この排泄現象は、次の日の朝ぐらいまで続く。毒物の排出が上手く行くと、翌日の朝の寝覚めがスッキリして、体が爽やかで透明な感じになる。この次の日の朝に起きたときの感じがスッキリしていることは、治療中に息が深くなること、治療後に表情が晴れ晴れとして足取りが軽くなることと並んで、治療が適切だったかどうかの良い目安。腹の邪気が大量に動き大量に毒物が排泄された場合には熱が出たりすることもあるが、翌朝の寝覚めがスッキリしていれば問題はない。鍼治療を無理せずに気持ち良い範囲でして、頭の散鍼と手甲への引き鍼を丁寧にすれば、そういう発熱なども少なくなる。

生理痛などの場合には、排出現象が次の生理のときに起こることが多い。普段よりも、色が黒く、粘り気も強く、匂いもキツイものが大量に出る。このことも、治療後に伝えておいた方がよい。